PRESS RELEASE

奈良女子大学
Nara Women's University

2025 年 3 月 29 日

「リビング・モダニティ 住まいの実験 1920s-1970s」展における カサ・デ・ヴィドロ模型制作について

2025 年 3 月 19 日より国立新美術館で開催されている「リビング・モダニティ展 住まいの実験 1920s-1970s」展において、奈良女子大学工学部・長田研究室の学生 11 名が、ブラジルの建築家リナ・ボ・バルディが設計した「カサ・デ・ヴィドロ（Casa de Vidro）」の 30 分の 1 スケールの建築模型を制作し、展示を行いました。

□模型制作の目的

カサ・デ・ヴィドロは、リナ・ボ・バルディが 1951 年に自身の住居として設計した建築であり、モダニズム建築の象徴のひとつとされています。長田研究室では、リビング・モダニティ展における建築の再考を目的とし、この住宅の構造・空間構成・周囲の自然環境との関係性を精密に分析し、30 分の 1 スケールでの模型制作を通じて、その特徴を視覚的に伝える試みを行いました。

展示される模型 正面から

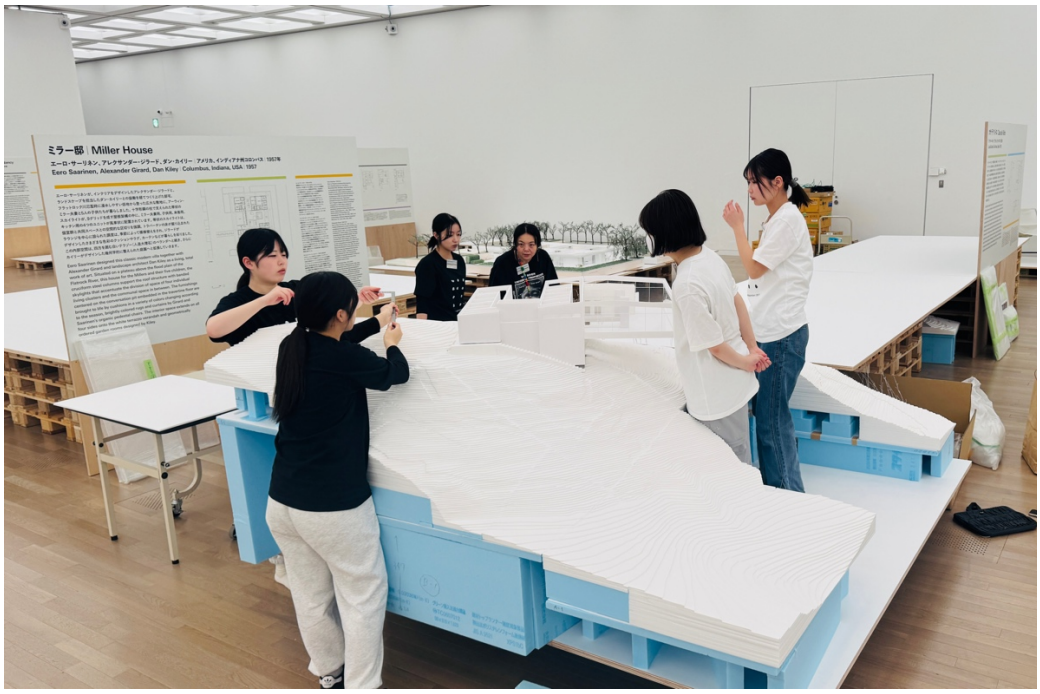
展示される模型と会場風景

□制作プロセス

模型は、リナ・ボ・バルディのオリジナル設計図や写真資料をもとに、研究室の学生たちが詳細な考証を重ねながら制作しました。建築の特徴であるピロティによる浮遊感、ガラス張りの開放的な空間、緑豊かな環境との調和を再現するため、素材選定や制作手法にこだわり、約 3 か月の制作期間をかけて完成させました。

特に、本模型は 2400mm×2700mm という大規模なサイズでありながら、すべて学生のみの手によって制作されました。細部までこだわった手作業による精巧な再現が求められる中、設計から制作、組み立てまでを一貫して学生が担当したことは、大きな挑戦であり、研究室の学びの成果を示すものとなっています。さらに、白い材料を使用することで、建築の形態や構造がより明確に伝わるよう工夫されています。

大学にて 建築部分の制作



展示室にて 15 に分かれたパーツを組立てて 植栽を植える

□展示の意義

本展示では、学生が建築模型の制作を通じて、建築の構造や空間構成を深く理解し、実際の制作プロセスを経験することを目的としています。設計図や写真資料をもとに、実際に手を動かしながら建築のディテールを再現することで、図面だけでは得られない立体的な理解を深める機会となりました。また、大規模な模型を学生のみで制作することで、チームワークや問題解決能力を養う貴重な実践の場となりました。

本プロジェクトを通じて、建築教育における模型制作の重要性を改めて認識し、今後の設計・研究活動に活かしていきたいと考えています。

□担当学生

岩垣美和、上村藍、奥田葵衣、奥田そら、櫻井茉莉、立石桜、深澤真由子、最上和々、山下さと、山本らな

□お問い合わせ

奈良女子大学 工学部 長田研究室
E-mail: contact@naosadalab.nwu.ac.jp
Web: www.naosadalab.nwu.ac.jp
【本件に関するお問い合わせ】
奈良女子大学工学部
長田直之研究室 長田直之
E-mail：nagata@cc.nara-wu.ac.jp

□展覧会情報

リビング・モダニティ 住まいの実験 1920s–1970s
会期：2025 年 3 月 19 日（水）–6 月 30 日（月）
会場：国立新美術館 企画展示室 1E/2E（東京・六本木）
主催：国立新美術館、東京新聞、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁

（機関窓口）
奈良女子大学 総務課 広報・基金係
TEL 0742-20-3220
Email：somu02@jimu.nara-wu.ac.jp